

愛知産業大学 大学院 造形学研究科

Aichi Sangyo University
Graduate School of Architecture and Design

探求心と創造力を刺激する 豊かな環境で、次代への扉を開こう

「造形学」とは、新しい生活や豊かな社会を構想し、デザインする学問分野。

そのアプローチは、建築、コンテンツデザイン、

プロダクト、ICT、経営マネジメントなど、多様です。

あなたらしいアプローチで、未来を構想する力を身に着けてください。



Message



変化の激しい時代において、次代を担う人材が求められています。

愛知産業大学大学院造形学研究科は、「建築学」、「デザイン学」をコアとしながら、経営マネジメント、プロダクト、ICTなど、社会が求める分野に領域を広げ、未来を構想する力を身に着けられるよう、環境を整えています。

また、社会人も学びやすいよう、授業の体制にも工夫を施しました。

豊かな自然に囲まれた明るいキャンパスで、専門知識を深め、研究に取り組みながら、仲間とともに学生生活を楽しんでください。自らの種を信じ、自分の芽を育て、社会に出て大きな果実を実らせましょう。

学長 高橋 実



目次

建学の精神	03
3つのポリシー	04
ASU Targets	05
愛知産業大学大学院の特徴	07
建築学専攻	11
建築学専攻教員紹介	13
デザイン学専攻	15
デザイン学専攻教員紹介	17
入試概要	19
ネット出願から合否までの流れ	23
授与する学位・大学院行事日程・授業時間	25
アクセス	26

建学の精神

豊かな知性と誠実な心を持ち
社会に貢献できる人材を育成する



大学院設置の理念

Philosophy

[建築学専攻]

建築・都市の分野において、21世紀の新しい社会創造に貢献できる有為な人材の育成を目指しています。建築造形の思想は、従来のスクラップ・アンド・ビルドの考え方から、環境負荷の少ないサステナブル社会の構築を目指す建設・管理・修理・改修・保全・保存という考え方へ大きく移行してきています。こうした新しい社会造形の中心的な役割を担う建築・都市の分野に資する造形デザイナー養成のための教育研究の場でありたいと考えています。

[デザイン学専攻]

現代社会において、よりよい日常生活を創る方策を探究し、提案する人材の育成を目指しています。デザインのさまざまな分野において、生活者と使い手の立場に立ち、日常生活の中から問題を発見し解決を図る姿勢や、人々と協調しつつ統率していく能力を身に付け、プロデューサーやデザイナー等として活躍する人材の養成のための教育研究の場でありたいと考えます。

造形学研究科の 教育研究上の目的

Purpose

人間の生活に不可欠な造形活動を、生活を包み容れる建築空間を創り出す「社会造形」と、日常行為を支える用具や生活様式を提案する「生活造形」の面から深く探究し、これらの実務に携わる、高度な倫理観と知識・技能を併せもった実践的職業人の育成を目的とします。

3つのポリシー

ディプロマ・ポリシー

Diploma Policy

[建築学専攻]

建築学専攻では、以下の点に到達している者に修士(建築学)を授与します。

- ・設計・設備・構造・施工・インテリア・マネジメントなどに関する事項を理解している。
- ・建築とそれを取り巻く環境について深く理解し、社会に必要な創造的かつ革新的な提案ができる。
- ・建築・建設に関する多様な情報について、分析と発信をすることができる。

[デザイン学専攻]

デザイン学専攻では、以下の点に到達している者に修士(デザイン学)を授与します。

- ・調査・分析・構想設計・製品設計・マネジメントなどに関する事項を理解している。
- ・デザインとそれを取り巻く環境について深く理解し、社会に必要な創造的かつ革新的な提案ができる。
- ・デザインが関係する産業の仕事に対して多種多様な情報を分析し、高度な伝達力と指導力を持つデザイン開発リーダーとしての素養を身に付けている。

カリキュラム・ポリシー

Curriculum Policy

[建築学専攻]

建築学専攻では、ディプロマ・ポリシーで述べた3つの目標を達成するため、以下のような教育プログラムを設けています。

- ・多様な学修背景をもつ学生に対応して、デジタル技術を活用して時間的・空間的に自由度の高い環境で学修をします。
- ・建築とそれを取り巻く環境について広い関心・問題意識を持たせ、複合的な領域で学びます。
- ・建築産業における実践的な専門知識と技術、社会や地域で自身の役割と責任を実感できる授業を行います。

[デザイン学専攻]

デザイン学専攻では、ディプロマ・ポリシーで述べた3つの目標を達成するため、以下のような教育プログラムを設けています。

- ・多様な学修背景をもつ学生に対応して、時間的・空間的に自由度の高い環境で学修をします。
- ・拡張するデザイン分野とそれを取り巻く環境について広い関心・問題意識を持たせ、複合的な領域で学びます。
- ・デザインが関係する産業における実践的な専門知識と技術、社会や地域で自身の役割と責任を実感できる授業を行います。

アドミッション・ポリシー

Admission Policy

[建築学専攻]

建築学専攻では、建築およびそれを取り巻く産業において、地域や生活に積極的に貢献できる人材を育成します。そのため、職業人として基本的な素養、論理的な思考と倫理観を持ち、サステナブル建築を実現に貢献したいという意欲が求められます。したがって、推薦入学選考では学修意欲とともに大学院において研究活動を進める能力を有するかの判断をします。一般選考では大学院での学修に必要な基礎的な学力と専門知識を持っているかを判断します。

[デザイン学専攻]

デザイン学専攻では、情報サービスや生活用品およびそれらに関する産業において、地域や生活に積極的に貢献できる人材を育成します。そのため、職業人として基本的な素養、論理的な思考と倫理観を持ち、サステナブルな社会の実現に貢献したいという意欲が求められます。したがって、推薦入学選考では学修意欲とともに大学院において研究活動を進める能力を有するかの判断をします。一般選考では大学院での学修に必要な基礎的な学力と専門知識を持っているかを判断します。

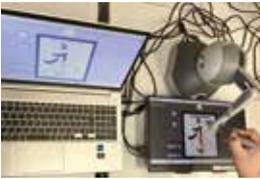
ASU Targets [4 Ways]

Way.1 SDGsと社会創造

地球を俯瞰するような大きな未来イメージの形成

持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない(leave no one behind)」ことを誓っています。

愛知産業大学大学院は、建学の精神「豊かな知性と誠実な心を持ち社会に貢献できる人材を育成する」を実現するため、研究・教育を通して、社会貢献、SDGsの実現に向けた取り組みを行っています。各領域での取り組みを紹介します。

SDGs Action	SDGs Action	SDGs Action
建築学専攻	マネジメント領域	デザイン学専攻
<p>木材や地域素材を活かした建築づくりなどの実践を行っています。またリノベーションや省エネ化、耐震化、地域の魅力づくりなど都市の持続可能性向上に向けた研究課題にも取り組んでいます。</p>	<p>ヒト・モノ・カネ・情報などの経営資源を効率的に活用し、持続可能な社会のしくみづくりをめざします。経営や政策の適性化について考える様々な職務で活躍できるレベルの高い専門職業人の養成を目指します。</p>	<p>企業との研究プロジェクトでは、鳥などの自然をテーマとした壁画や、地域の木材を使った古着回収ボックスの制作など、デザインの力を通して社会に貢献し、持続可能な仕組みづくりに取り組んでいます。</p>
		
		

Way.2 Society 5.0の実現

地域・産業界と連携した地域活性化人材の育成

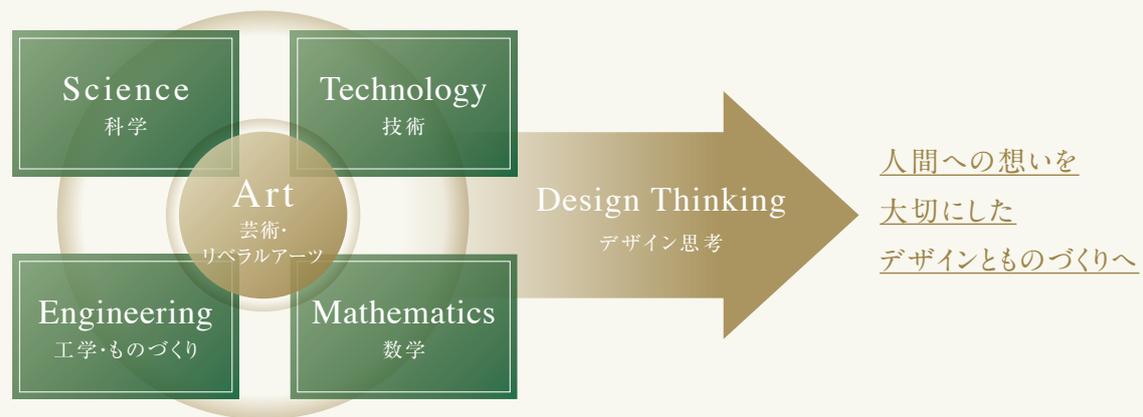
これまで人類が経験してきた、[1.0 狩猟社会]、[2.0 農耕社会]、[3.0 工業社会]、[4.0 情報社会]に続く、新たな社会[Society 5.0]が訪れようとしています。「サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させた仕組みで、経済発展と社会課題の解決を可能にする人間中心の社会」です。それには、多様な人々の「想像力」と「創造力」が求められます。産業界と連携しながら、PBL型教育やリカレント教育、地域活性化人材の育成など、[Society 5.0]を担う人材の育成を行います。



Way.3 STEAM人材教育

先端技術とリベラルアーツの融合で育むデザイン思考

主体とする専門分野の力を身につけるとともに、科学、技術、工学、数学、アートの各分野の統合的な学びに配慮した学びを目指します。「情報と未来デザイン」、「建築と地域づくり」、「造形演習」、「造形理論」などの科目は、STEAM人材の育成をめざして構成しました。あわせて、問題発見力、課題解決力、協働力、挑戦力・実践力を涵養し、未来を構想、変革できるSTEAM人材の育成を目標とします。



Way.4 LPS (TPS) ものづくり

構想を具現化・持続化させるためのしくみづくり

デザインとものづくりに求められる、仕組みづくりの知恵を「造形理論」などで、学びます。リーン生産方式(トヨタ自動車の生産方式)は、自動化(自動化ではない)やジャスト・イン・タイムを軸に構成されています。これは、ものづくりにとどまらず、組織づくりや様々な仕組みづくりに役立てることが出来ます。企業との連携を通じた授業を展開します。

- | | |
|---|---|
| <p>1 ムダ取り</p> <p>作業の中には「ムダ」を排除し、より多くの付加価値を生み出す作業に集中。</p> | <p>2 改善 (KAIZEN)</p> <p>工程の問題ややりにくさを、常に「もっと良い方法はないか?」を考え続ける。</p> |
| <p>3 見える化</p> <p>問題を周囲に見えるようにし、その上で関係者全員が知恵を出し合って解決を目指す。</p> | <p>4 なぜなぜ分析</p> <p>問題が起きた際、誰かの責任追及ではなく、原因追究・真因追求することが大切。</p> |

愛知産業大学大学院の特徴

複合的な専門領域の学びが、社会での即戦力、強みにつながります

Style.1 建築もしくはデザインの専門領域に加え、マネジメントを学ぶ

Style.2 経営マネジメントに加え、建築もしくはデザインを学ぶ

次代を拓く、魅力的な共通科目群

「情報と未来デザイン」

これからの社会に必要な不可欠な情報学と未来を切り開くために有用なデザイン思考を学びます。画像生成AI、ロボット、SDGsなどの事例研究を通して、知識の涵養と問題解決力の向上を図ります。

「建築と地域づくり」

地域を魅力的で持続可能なものとするために、建築が果たす役割は大きいと言えます。建築をつくるまでのプロセス、建築の運営方法とコンテンツ、地域に根ざした素材やつくり方など、多様な観点から建築のあり方を検討します。

「造形演習」

ものづくりの構想力と実践力を高めることを目的として、木工などに取り組みます。アイデアを具現化するための手法と改善、問題の見える化と原因分析など、構想を具現化・持続化させるためのしくみづくりを考えます。

「マーケティング論」

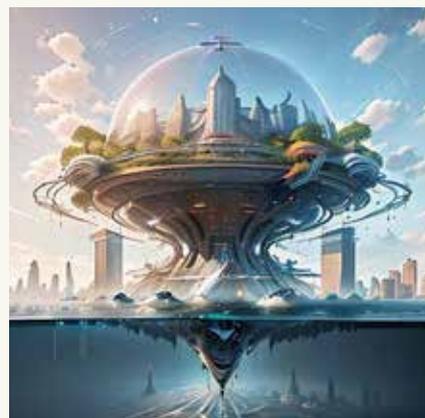
マーケティングの理論と実践の両面からアプローチし、経営課題の分析力を身につけます。

「経営戦略論」

経営戦略の理論と実践の両面からアプローチし、経営課題の分析力を身につけます。

「地域マネジメント論」

地域振興政策や地域産業の育成の視点からアプローチし、経営課題の分析力を身につけます。



画像生成 AI を用いて描いた未来図
(大学院生作品)



藤川宿「米屋」再生プロジェクト



バーチャルレビューでのプレゼンテーション



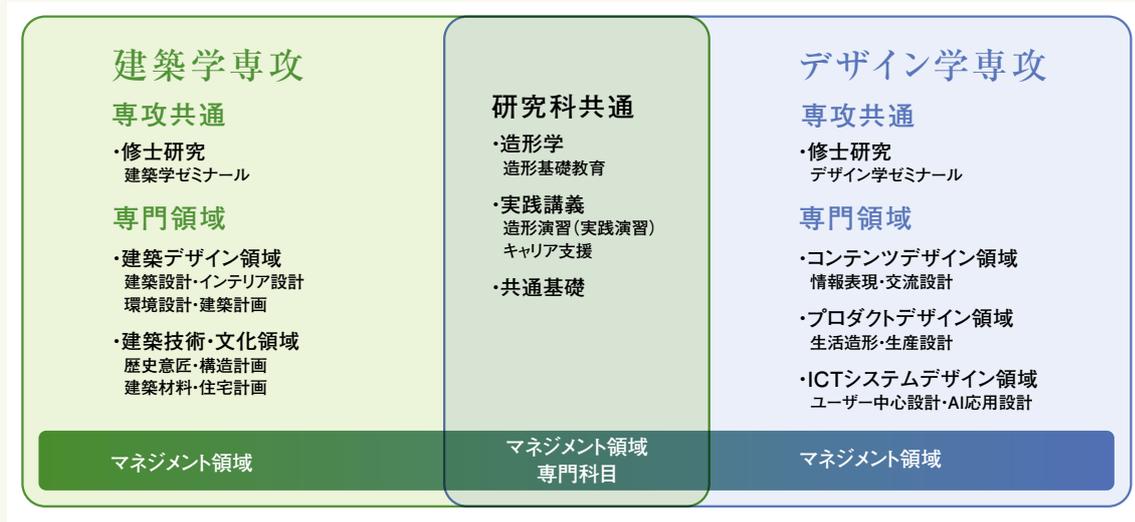
ファシリテーションロボットの会話実験

研究科共通科目

造形学	1 春	造形理論A
	1 秋	造形理論B
	1 秋	造形演習
	2 春	情報と未来デザイン
	2 秋	建築と地域づくり
キャリア形成	1 春	インターンシップ
共通基礎	1 春	建築学特別講義
	1 秋	デザイン学特別講義
	2 春	マネジメント学特別講義
マネジメント	1 春	マーケティング論
	1 秋	経営戦略論
	2 春	地域マネジメント論

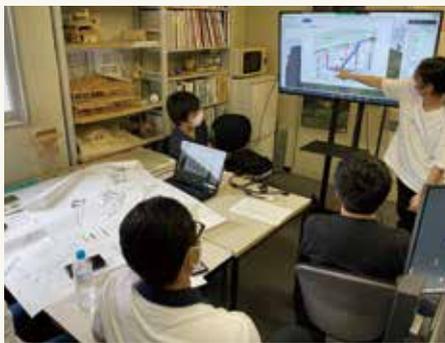
研究科共通科目を軸とした、各専攻・領域の学修内容

建築もしくはデザインの専門領域に加え、マネジメントを学ぶスタイル、経営マネジメントを軸としながら、建築もしくはデザインを学ぶスタイルなどを想定しています。複合的な専門の学びが、社会での即戦力、強みにつながります。



研究や指導の特色

実務、実践的な研究に重きを置き、グループ指導やマンツーマン指導を行っています。専任教員以外にも、各分野での見識をもつ専門家を講師に招聘し、産学連携 共同研究や協同活動を行っています。



岡崎市まちづくりプロジェクト



松応寺版土塀再生プロジェクト

インターンシップ

企業や行政、設計事務所などでのインターンシップを正規科目としており、所定の研修を実施することで単位認定されます。

各自のバックボーンや知識・技術をふまえ、実務に取り組むことで、実践力や適応能力を高めます。



キャリアサポート

1.進路・就職相談

就職担当職員と進路の検討から就職活動の進め方まで気軽に相談することができます。また、専門の教員から進路についての相談や助言を受けることができます。

2.就職支援システム

数多くの求人票、本学への来訪企業求人などを対象に、企業の検討と絞り込みを行うことができます。

3.企業研究会

本学の学生への採用意向のある企業が一同に会する「企業研究会」を学内で実施しています。

社会人にも学びやすい様々な工夫

リカレント教育、リスキリングの必要性や有効性に関心もたれています。社会人として大学院の学修に取り組むことには様々な意義があり、業務や生活における課題を研究テーマとしたり、修了後の業務を想定した課題に取り組むなど、リフレッシュとキャリアアップにつながる事が可能です。

本学大学院では、「遠隔」と「対面」を組み合わせた学修システム、長期・早期履修制度、一般教育訓練給付指定講座の指定など、社会人の学びやすさへの工夫と対応がなされています。日常業務やプライベートと並行しながら、自分らしい学びを実現してください。

「遠隔」と「対面」での学び、 それぞれのメリットを組み合わせた学修スタイル



ゼミナール

学生と教員が日程や授業形式を調整して実施します。



オンデマンド授業

UNIPA(オンライン教育システム)やTeamsなどを用いて行います。

ハイブリッド授業

一般学生は対面授業ですが、社会人学生はオンデマンド授業を選択することが可能です。

ブレンド授業

オンデマンド授業7回、対面授業8回を組み合わせて実施します。



対面授業

キャンパスにて行います。交流やディスカッションも刺激になります。

仕事や家事との両立も可能な学び方

		7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00
				1限目	2限目	3限目	4限目	5限目										
月	起床	朝食・準備	通勤	仕事								通勤	夕食・家事など	オンデマンド授業	自主学習 修士研究	就寝		
火	起床	朝食・準備	通学	研究室で 修士研究	オンデマンド 授業	昼食	ゼミナール	対面授業	通学	夕食・家事	自主学習 修士研究	プライベート	就寝					
水	起床	朝食・準備	通勤	仕事								通勤	夕食・家事など	自主学習 修士研究	プライベート	就寝		
木	起床	朝食・準備	通勤	仕事								通勤	夕食・家事など	オンデマンド 授業	自主学習 修士研究	就寝		
金	起床	朝食・準備	通勤	仕事								通勤	夕食・家事など	プライベート	就寝			
土	起床	朝食・準備	通勤	仕事								通勤	夕食・家事など	プライベート	就寝			
日	就寝	起床	朝食	プライベート	自主学習 修士研究	昼食	プライベート					夕食・家事など	プライベート	就寝				

※修士1年生のBさんの場合:週休2日(火曜日+日曜日)で、対面授業(含、ゼミナール)を2科目とオンデマンド授業を3科目履修

様々な学び方で修了を目指すことができます

ライフスタイルや仕事の状況などに応じて、長期もしくは短期での修了を目指すことができます。いずれの制度も、学納金総額に大きな違いを設けていないことから、無理のない進め方で学修を続けることができます。4月のみでなく、10月入学の制度もあります。

長期履修制度

社会人を対象として、標準2年の修学期間を、予め3年間あるいは4年間と設定して履修する制度です。

	標準	長期履修制度		備考
	2年制	3年制	4年制	
入試形態	———	出願時に選択		
受験資格	———	社会人のみ		
修業年限の上限	4年	5年	6年	
休学可能期間	2年間			
学費/年度	750,000円	500,000円	375,000円	授業料、教育充実費、実習費の合計
	———	2/3倍	1/2倍	

早期修了制度

- 社会人を対象として科目等履修などと前倒し履修により30単位以上を修得している場合に1年半で学位審査等を受けることが出来る制度です。

(a) 春学期入学

入学前	令和8年度		令和9年度	
春/秋	春学期	秋学期	春学期	秋学期
科目等履修	M1		M2	
	↑ 入学	↑ 早期修了判定申請	↑ 早期修了判定	

(b) 秋学期入学

入学前	令和8年度		令和9年度	
春/秋	春学期	秋学期	春学期	秋学期
科目等履修	科目等履修	M1		M2
	↑ 入学	↑ 早期修了判定申請	早期修了判定 ↑	

一般教育訓練給付指定講座の指定

雇用保険法に規定する一般教育訓練の指定を受けており、要件を満たす方には修了後に教育訓練給付金が支給されます。

建築学専攻の教育研究領域

今後、人口減少、少子高齢化の時代を迎えるに当たり、地域の構想力がますます求められます。これからの「地域づくり」は、単に行政の仕事ということだけではなく、新たなビジネスや魅力的な地域のつくり方など、多様な視点で、様々な立場の人が参加して行く必要があります。それには、単体の建築を考えるだけではなく、エリアマネジメントや地域ブランディングといった視点も重要です。林業や地場産業など、地域の産業や技術を理解し、連携した建築のあり方も考えられそうです。一方、AIなど情報技術の進化をいかした建築づくりや地域のあり方も模索できそうです。耐震性の強化や素材の開発、環境技術を活かした建築も必要です。これからの時代に求められる、「地域構想力」を有した人材の育成をめざします。

[建築デザイン領域] 暮らしの空間や社会の在り方をデザインし提案します

- 建築設計
- 建築計画
- 環境設計
- インテリア設計

建築デザインでは、内部と外部、さらにその周辺環境にも配慮して創造することが求められます。内部では、利用する人々の住まい方や使われ方に注目し、快適性や利便性に優れた空間を提案することが求められ、外部や周辺環境ではその建物が都市に与える影響へ考慮が必要となります。持続可能な社会にふさわしい建築を目指して、インテリア・建築・都市の生産・維持管理・再生に十分配慮した設計能力と課題解決力を育成します。

[建築技術・文化領域] 暮らしや社会生活で活用できる新たな技術・価値・しゅみを提案します

- 歴史意匠
- 構造計画
- 建築材料

環境への配慮、自然災害への対策、働き方改革の推進など、建築界をめぐる諸課題はより複雑になっています。それにあわせて情報技術や新素材・新構法を活かした建築技術の開発が進むと同時に、伝統的な建築技術の再評価も進んでいます。建築技術・文化領域では、過去から現在、そして未来を見すえて、建築技術の発展とその社会受容にかかわる文化の諸問題について学修し、これからの社会で求められるイノベティブな発想と能力を身につけます。

[マネジメント領域]

組織目標の達成を目指すことを意味するマネジメントは、建築分野においてもコスト、工程、品質、情報、リスクなどの各側面で強く求められており、よりよい建築の実現にはマネジメントの知識がきわめて重要となっています。マネジメント領域では、建築プロジェクトにおける発案から運用までの一連の流れをマネジメントの視点からアプローチし、経営資源を効率的に活用できる持続可能な住宅・建築・地域について考えます。

研究科共通科目

造形学

- 造形理論A
- 造形理論B
- 造形演習
- 情報と未来デザイン
- 建築と地域づくり

キャリア形成

- インターンシップ

共通基礎

- 建築学特別講義
- デザイン学特別講義
- マネジメント学特別講義

マネジメント

- マーケティング論
- 経営戦略論
- 地域マネジメント論

建築学専攻専門科目

建築デザイン

- 建築デザイン論
- 環境デザイン論
- インテリアデザイン論

建築技術・文化

- 材料設計論
- 構造設計論
- 木造建築論

設計

- 設計演習A
- 設計演習B

ゼミナール

- 建築学ゼミナールA
- 建築学ゼミナールB
- 建築学ゼミナールC
- 建築学ゼミナールD
- 建築学ゼミナールE
- 建築学ゼミナールF

開講科目と履修モデル

	学年	学期	科目名	必修/選択	授業形式	授業	授業形態	単位数	一般・留学生			社会人		
									①	②	③	①	②	③
研究科 共通科目	造形学	1 春	造形理論A	選択	講義	週間	ハイブリッド	2	●	●	●	●	●	●
		1 秋	造形理論B	選択	講義	週間	ハイブリッド	2	●	●	●	●	●	●
		1 秋	造形演習	選択	演習	週間	対面	2	●	●				
		2 春	情報と未来デザイン	選択	講義	週間	ハイブリッド	2			●		●	●
		2 秋	建築と地域づくり	選択	講義	週間	ハイブリッド	2	●	●		●	●	●
	キャリア形成	1 春	インターンシップ	選択	演習	集中	対面	2			●			
		1 春	建築学特別講義	選択	講義	週間	オンデマンド	2	●	●		●	●	●
	共通基礎	1 秋	デザイン学特別講義	選択	講義	週間	オンデマンド	2		●	●	●		●
		2 春	マネジメント学特別講義	選択	講義	週間	オンデマンド	2			●		●	●
		1 春	マーケティング論	選択	講義	週間	ハイブリッド	2			●			●
	マネジメント	1 秋	経営戦略論	選択	講義	週間	ハイブリッド	2			●			●
		2 春	地域マネジメント論	選択	講義	週間	ハイブリッド	2			●		●	●
1 春		建築学ゼミナールA	必修	演習	集中	ゼミナール	2	●	●	●	●	●	●	
建築学専攻 専門科目	ゼミナール	1 秋	建築学ゼミナールB	必修	演習	集中	ゼミナール	2	●	●	●	●	●	●
		2 春	建築学ゼミナールC	必修	演習	集中	ゼミナール	2	●	●	●	●	●	●
		2 春	建築学ゼミナールD	選択	演習	集中	ゼミナール	2	●	●	●	●	●	
		2 秋	建築学ゼミナールE	必修	演習	集中	ゼミナール	2	●	●	●	●	●	●
		2 秋	建築学ゼミナールF	選択	演習	集中	ゼミナール	2	●	●	●	●	●	●
		設計	1 春	設計演習A	選択	演習	集中	ブレンド	2	●	●		●	
	1 秋		設計演習B	選択	演習	集中	ブレンド	2	●			●		
	建築	1 春	建築デザイン論	選択	講義	週間	ハイブリッド	2	●			●		
		1 秋	環境デザイン論	選択	講義	週間	ハイブリッド	2						
		2 春	インテリアデザイン論	選択	講義	週間	ハイブリッド	2	●			●		
		1 春	構造設計論	選択	講義	週間	ハイブリッド	2		●				
		1 秋	材料設計論	選択	講義	週間	ハイブリッド	2		●			●	
		2 春	木造建築論	選択	講義	週間	ハイブリッド	2					●	

※①建築デザイン領域 ②建築技術・文化領域 ③マネジメント領域

※表に示す●は履修モデルであり、その他の科目も選択可能です。

履修スタイル

共通科目、専門科目の中から、自身の専門領域やキャリア形成の観点から、科目を選択することができます。建築領域、マネジメント領域など、軸をもって履修登録することも可能です。社会人は、ハイブリッドやオンデマンドのスタイルを中心に学ぶこともできます。

修士研究

研究テーマは、社会的背景、自身の興味や問題意識、担当教員の強みなどから決定していきます。入学前に想定したテーマから、進学後に変更することは構いません。総合的な観点から、魅力的なテーマを見つけ、探求してください。

修士研究例

- 西洋近世の美術作品および言説に関する研究
- 地域の木と土を活かした住宅の環境性能評価
- 建築・都市空間のイメージと構成手法
- 地域を変えるデザインの研究
- エリア「境界」の生成に関する研究
- 景観計画における色彩基準と店舗ファサードデザイン
- 中東・イスラーム地域における都市構成
- 竹管コンクリートの構造特性に関する研究
- 住宅材料の意匠価値
- 昭和期日本における木造建築論の展開と変質
- 触力覚を用いた人とロボット間協調の高安定・高品質化
- 金融経済教育
- リレーションシップ・マーケティングの発展と領域拡大
- 日本における中小企業会計基準の成り立ちと諸問題

一般学生の学修スケジュールのイメージ

※修士1年生のAさん(建築デザイン領域で建築設計などを主に学びたい学生)の場合

時間	月	火	水	木	金
1 9:30~11:00					
2 11:10~12:40		■建築学特別講義(オンデマンド授業)			
3 13:40~15:10	■建築デザイン論(対面授業)				■建築学ゼミナール(対面授業)
4 15:20~16:50		■造形理論A(対面授業)			

集中講義:設計演習A(ブレンド授業)



研究科

杉山 奈生子 教授

デザイン学専攻長

[研究分野]

美学・美術史学(主に近世フランス)

[主な担当科目]

造形理論A、造形理論B、情報と未来デザイン

[研究指導テーマ(例)]

- 西洋近世の美術作品および言説に関する研究
- デザイン概念の形成と展開に関する歴史的研究
- 東洋と西洋の造形感覚に関する比較研究



建築デザイン領域

宇野 勇治 教授

造形学研究科長

[研究分野]

建築環境デザイン

[主な担当科目]

環境デザイン論、建築学ゼミナール

[研究指導テーマ(例)]

- 地域の木と土を活かした住宅の現境性能評価
- 自然エネルギーを活用した建築のデザイン手法
- 伝統建築技術を活かした景観再生に関する研究



建築デザイン領域

高木 清江 教授

建築学科長

[研究分野]

建築計画

[主な担当科目]

建築デザイン論、建築学ゼミナール

[研究指導テーマ(例)]

- 建築・都市空間のイメージと構成手法
- 公園等の利用を高める空間構成
- 子どもにやさしいまちをつくる施策と事業



建築デザイン領域

宮崎 晋一 教授

[研究分野]

建築設計、建築計画

[主な担当科目]

建築と地域づくり、建築学ゼミナール

[研究指導テーマ(例)]

- 地域を変えるデザインの研究
- コミュニティを創生するエリアリノベーション
- 地域産材を活用したプロダクトデザイン



建築デザイン領域

栗原 健太郎 准教授

[研究分野]

建築設計、建築における兼用性に関する研究
- 構造・設備・空間・家具の統合

[主な担当科目]

設計演習、建築学ゼミナール

[研究指導テーマ(例)]

- エリア「境界」の生成に関する研究
- 連棟形式の可能性
- 建築の兼用性



建築デザイン領域

寺嶋 利治 准教授

[研究分野]

建築設計、インテリアデザイン

[主な担当科目]

インテリアデザイン論、建築学ゼミナール

[研究指導テーマ(例)]

- 景観計画における色彩基準と店舗ファサードデザイン変更の実態
- 非居室空間の空間構成と活動
- 複合建築における共用部の空間構成と活動



建築デザイン領域

森本 達也 講師

[研究分野]

木工、家具デザイン、木造建築

[主な担当科目]

造形演習



建築技術・文化領域

新井 勇治 教授

[研究分野]

イスラーム建築史・都市史、建築史、建築意匠

[主な担当科目]

木造建築論、建築学ゼミナール

[研究指導テーマ(例)]

- 中東・イスラーム地域における都市構成
- 西アジアにおける古代から現代までに至る住居建築と住まい方
- 建築史・都市史および建築文化



建築技術・文化領域

小椋 紀行 教授

建築学専攻長

[研究分野]

鉄筋コンクリート構造、建築構造教育

[主な担当科目]

構造設計論、建築学ゼミナール

[研究指導テーマ(例)]

- 竹管コンクリートの構造特性に関する研究
- 体験型建築構造教材の効果
- RC部材の破壊過程の視覚化



建築技術・文化領域

今西 貴美 教授



[研究分野]
インテリア・建築材料、住宅設計

[主な担当科目]
材料設計論、建築学ゼミナール

- [研究指導テーマ(例)]
- 住宅材料の意匠価値
 - 空間意匠計画の手法
 - 機能的な行為空間の分析

建築技術・文化領域

竹内 孝治 准教授



[研究分野]
住宅計画史、住宅産業論、ハウジング

[主な担当科目]
建築学特別講義、建築学ゼミナール

- [研究指導テーマ(例)]
- 昭和期日本における木造建築論の展開と変質
 - 近現代における住宅産業の発展と変容
 - 戦時期日本における住宅計画の理論と思想

マネジメント領域

石橋 豊 教授

経営学部長



[研究分野]
情報通信、ネットワーク

[主な担当科目]
マネジメント学特別講義、建築学ゼミナール

- [研究指導テーマ(例)]
- 触力覚を用いた人とロボット間協調の高安定・高品質化
 - 多感覚通信品質制御に関する研究
 - 多感覚メタバースを用いた歩行支援技術の研究開発

マネジメント領域

奥田 真之 教授



[研究分野]
金融論、金融経済教育、中小企業の経営戦略

[主な担当科目]
経営戦略論、建築学ゼミナール

- [研究指導テーマ(例)]
- 金融経済教育
 - 地域経済における金融機関の役割

マネジメント領域

山崎 方義 教授

総合経営学科長



[研究分野]
広告、マーケティング、
マーケティング・コミュニケーション、
コーポレート・コミュニケーション

[主な担当科目]
マーケティング論、建築学ゼミナール

- [研究指導テーマ(例)]
- リレーションシップ・マーケティングの発展と領域拡大
 - ステークホルダー・マネジメントにおけるコミュニケーション活動
 - SDGsとソーシャル・コミュニケーションに関する研究

マネジメント領域

鶴見 正史 教授



[研究分野]
中小企業の会計基準、会計構造論

[主な担当科目]
地域マネジメント論、建築学ゼミナール

- [研究指導テーマ(例)]
- 日本における中小企業会計基準の成り立ちと諸問題
 - キャッシュ・フロー計算書と簿記の会計構造
 - 明治以降における簿記の歴史的研究



土を活かした建築における
温熱環境の実験棟実験



山王のオフィス(栗原准教授設計)



中野市児童発達支援センター
(寺嶋准教授設計)

デザイン学専攻の教育研究領域

デザイン学専攻では、各共通科目や専攻領域科目において、専門に関する基礎から応用まで幅広い知識とスキルを習得し、ゼミナールにおいて、修士研究の計画から成果発表まで指導教員によるきめ細やかな指導を受けることができます。修了後は、情報やデザインの専門性を活かして、産業界での活躍が期待されます(就職内定実績:トヨタ自動車、シーメンス、IKEA、吉利汽車(ジーリー)ほか)。

コンテンツデザイン領域

人間が持つ意思疎通への基本的欲求は、その“思い”の表現と伝達の手法を発達させ、実に多種多様なメディアが利用されてきました。コンテンツ分野では、紙メディアから電子メディアが主流となり、表現手法や伝達手段が多様になっています。多量の情報発信が個人でも可能になり、誰でも様々な情報を得ることが可能となるにつれて、情報伝達デザインでは倫理問題が重要となっています。そこで、多種多様なメディアの活用と最新の伝達デバイスへの適用を研究し、新たな情報デザインの表現や適用の提案ができる先導的職業人を養成します。

プロダクトデザイン領域

身近な生活で使用される日用品、道具、遊具、乗り物、家具等を、人間の身体や生活習慣との関係や、それらの置かれる空間や環境との関係など様々な視点で問い直し、より使いやすく、楽しく、美しく、快適でかつ持続可能なモノや空間さらには、システムとして提案していきます。そして、その提案を企業や社会に提示できる実践的職業人として育成します。

ICTシステムデザイン領域

社会や生活の中でAI[人工知能]技術が活用され始めています。サステナブルな社会の実現にはAIを用いたサービスや製品の創造が求められている時代であって、単にデザイン結果を提案するだけでなく、ユーザーに寄り添って成長・進化するデザインのあり方を研究します。デザインへのAI技術の適用やIoTへの活用など、産業界とユーザーを本当の意味で結びつける新しい領域の先導的職業人を育成します。

マネジメント領域

マネジメントは「経営管理」などの意味を持ち、組織目標の達成を目指すことをいいます。高度化する産業社会では、分野を問わず高度なマネジメント能力が求められるようになってきました。マネジメント領域では、ファイナンスやマーケティング、組織デザイン、人的資源管理、経営戦略、イノベーション等について、理論と実践との融合という見地からアプローチしていきます。ヒト・モノ・カネ・情報などの経営資源を効率的に活用し、成果を高める実務的なセンスと能力を高めることで、様々な職務で活躍できるレベルの高い専門職業人の養成を目指します。

研究科共通科目

造形学

- 造形理論A
- 造形理論B
- 造形演習
- 情報と未来デザイン
- 建築と地域づくり

キャリア形成

- インターンシップ

共通基礎

- 建築学特別講義
- デザイン学特別講義
- マネジメント学特別講義

マネジメント

- マーケティング論
- 経営戦略論
- 地域マネジメント論

デザイン学専攻専門科目

コンテンツデザイン

- 視覚デザイン論
- 情報デザイン論

プロダクトデザイン

- 製品デザイン論
- 空間デザイン論

ICTシステムデザイン

- 情報システムデザイン論
- 先進システムデザイン論

デザイン

- デザイン演習A
- デザイン演習B

ゼミナール

- デザイン学ゼミナールA
- デザイン学ゼミナールB
- デザイン学ゼミナールC
- デザイン学ゼミナールD
- デザイン学ゼミナールE
- デザイン学ゼミナールF

開講科目と履修モデル

	学年	学期	科目名	必修/選択	授業形式	授業	授業形態	単位数	一般・留学生				社会人			
									①	②	③	④	①	②	③	④
研究科 共通科目	造形学	1 春	造形理論A	選択	講義	週間	ハイブリッド	2	●	●	●	●	●	●	●	●
		1 秋	造形理論B	選択	講義	週間	ハイブリッド	2	●	●	●	●	●	●	●	●
		1 秋	造形演習	選択	演習	週間	対面	2	●	●						
		2 春	情報と未来デザイン	選択	講義	週間	ハイブリッド	2			●	●		●	●	●
		2 秋	建築と地域づくり	選択	講義	週間	ハイブリッド	2	●	●			●	●	●	●
		1 春	インターンシップ	選択	演習	集中	対面	2			●	●				
	共通基礎	1 春	建築学特別講義	選択	講義	週間	オンデマンド	2	●	●			●	●	●	●
		1 秋	デザイン学特別講義	選択	講義	週間	オンデマンド	2		●	●	●	●			●
		2 春	マネジメント学特別講義	選択	講義	週間	オンデマンド	2			●	●		●	●	
	マネジメント	1 春	マーケティング論	選択	講義	週間	ハイブリッド	2				●				●
		1 秋	経営戦略論	選択	講義	週間	ハイブリッド	2				●				●
		2 春	地域マネジメント論	選択	講義	週間	ハイブリッド	2			●	●		●	●	●
デザイン専攻 専門科目	ゼミナール	1 春	デザイン学ゼミナールA	必修	演習	集中	ゼミナール	2	●	●	●	●	●	●	●	●
		1 秋	デザイン学ゼミナールB	必修	演習	集中	ゼミナール	2	●	●	●	●	●	●	●	●
		2 春	デザイン学ゼミナールC	必修	演習	集中	ゼミナール	2	●	●	●	●	●	●	●	●
		2 春	デザイン学ゼミナールD	選択	演習	集中	ゼミナール	2	●	●	●	●	●	●		
		2 秋	デザイン学ゼミナールE	必修	演習	集中	ゼミナール	2	●	●	●	●	●	●	●	●
		2 秋	デザイン学ゼミナールF	選択	演習	集中	ゼミナール	2	●	●	●	●	●	●	●	●
	デザイン	1 春	デザイン演習A	選択	演習	集中	ブレンド	2	●	●			●			
		1 秋	デザイン演習B	選択	演習	集中	ブレンド	2	●				●			
	コンテンツ デザイン	1 春	視覚デザイン論	選択	講義	週間	ハイブリッド	2	●				●			
		1 秋	情報デザイン論	選択	講義	週間	ハイブリッド	2	●							
	プロダクト デザイン	1 春	製品デザイン論	選択	講義	週間	ハイブリッド	2		●			●	●		
		1 秋	空間デザイン論	選択	講義	週間	ハイブリッド	2		●				●		
	ICTシステム デザイン	1 春	情報システムデザイン論	選択	講義	週間	ハイブリッド	2			●				●	
		1 秋	先進システムデザイン論	選択	講義	週間	ハイブリッド	2			●				●	

※①コンテンツデザイン領域 ②プロダクトデザイン領域 ③ICTシステムデザイン領域 ④マネジメント領域
※表に示す●は履修モデルであり、その他の科目も選択可能です。

履修スタイル

共通科目、専門科目の中から、自身の専門領域やキャリア形成の観点から、科目を選択することができます。デザイン領域、マネジメント領域など軸を持って履修登録することも可能です。社会人は、ハイブリットやオンデマンドのスタイルを中心に学ぶこともできます。

修士研究

研究テーマは、社会的背景、自身の興味や問題意識、担当教員の研究領域などから決定していきます。入学前に想定したテーマから、進学後に変更することは構いません。総合的な観点から魅力的なテーマを見つけ、探求してください。

修士研究例

- デジタルサイネージと印刷メディアによるクロスメディア展開
- 擬人化キャラクターの制作とエージェントとしての活用
- 「ふるまい」を表現した文字アニメーションの制作
- 現代の個食環境に合わせた食器の提案
- 常夜灯など伝統に基づく道路照明器具のデザイン研究
- 子供を育むための住空間の有効利用
- 外国人児童の教育を目的とする童話アニメーション制作
- ストレス解消音楽のCDパッケージデザイン
- 観光名所案内のCG制作
- 遊具メーカーでの新しい遊具の開発・提案
- ゲームイベント展示物の3Dモデルデータの制作
- 調理の作業性とインテリア性を両立できるキッチン収納開発

一般学生の学修スケジュールのイメージ

※修士1年生のAさん(プロダクトデザイン領域で製品設計などを主に学びたい学生)の場合

時間	月	火	水	木	金
1 9:30~11:00					
2 11:10~12:40		■デザイン学特別講義(オンデマンド授業)			
3 13:40~15:10	■空間デザイン論(対面授業)				■デザイン学ゼミナール(対面授業)
4 15:20~16:50		■造形理論B(対面授業)			



研究科

杉山 奈生子 教授

デザイン学専攻長



[研究分野]

美学・美術史学(主に近世フランス)

[主な担当科目]

造形理論A、造形理論B、情報と未来デザイン

[研究指導テーマ(例)]

- 西洋近世の美術作品および言説に関する研究
- デザイン概念の形成と展開に関する歴史的研究
- 東洋と西洋の造形感覚に関する比較研究

コンテンツデザイン領域

岩田 政巳 准教授



[研究分野]

平面及び立体作品制作、造形基礎教育

[主な担当科目]

デザイン演習A、デザイン学ゼミナール

[研究指導テーマ(例)]

- 平面表現作品の制作研究
- 平面表現技法における材料研究
- インスタレーション表現研究

プロダクトデザイン領域

木村 光 教授



[研究分野]

プロダクトデザイン、インダストリアルデザイン
製品視覚情報デザイン

[主な担当科目]

製品デザイン論、デザイン演習B、デザイン学特別講義、デザイン学ゼミナール

[研究指導テーマ(例)]

- 乗り物における快適性の研究
- コミュニケーションを図る玩具の研究
- 豊かな暮らしをめぐる日用品・雑貨・家電の提案

ICTシステムデザイン領域

西村 雅史 教授

スマートデザイン学科長



[研究分野]

知能情報学、健康・医療情報学

[主な担当科目]

情報システムデザイン論、デザイン学ゼミナール

[研究指導テーマ(例)]

- センサー情報処理応用システムのデザインと評価
- 音情報に基づく人間の機能拡張に関する研究
- 高齢者・障害者支援技術に関する研究

ICTシステムデザイン領域

章 忠 教授



[研究分野]

信号・画像情報処理、知的センシング、ウェブプレット変換

[主な担当科目]

デザイン学ゼミナール

[研究指導テーマ(例)]

- AI技術を用いた光沢部品表面の欠陥自動検出技術の開発
- ディープラーニングの一種OpenPoseによる異常運転行動の検出法に関する研究
- 畳み込みニューラルネットワークを使用した水道管漏水の自動検出技術の開発
- LiDARを用いてコンクリート表面損傷の計測と解析手法に関する検討

コンテンツデザイン領域

宇井 朗浩 教授



[研究分野]

映像論、ビデオアート、映像制作

[主な担当科目]

デザイン学特別講義、情報デザイン論、デザイン学ゼミナール

[研究指導テーマ(例)]

- ノンリニア技術を使った自主制作映像の制作法の研究
- キャリア理論を援用した映像のストーリー制作
- ドキュメンタリーと地域性の関係

コンテンツデザイン領域

松浦 主税 准教授



[研究分野]

岩絵具を使った絵画制作

[主な担当科目]

視覚デザイン論、デザイン演習A、デザイン学ゼミナール

[研究指導テーマ(例)]

- 風景表現とデザインコンテンツへの活用に関する研究
- 映像用背景画の表現とその技法に関する研究
- デザインにおける平面的空間表現の利用に関する研究

プロダクトデザイン領域

森 理恵 准教授



[研究分野]

プロダクトデザイン、インテリアデザイン

[主な担当科目]

空間デザイン論、情報と未来デザイン、デザイン学ゼミナール

[研究指導テーマ(例)]

- インクルーシブデザインによる商品開発
- 社会課題解決に向けたデザイン
- 生活用品および家具の普遍的形態に関する研究

ICTシステムデザイン領域

林 羊蘭代 教授



[研究分野]

西洋美術史(ルネサンス工芸史)、
カラーユニバーサルデザイン

[主な担当科目]

デザイン学特別講義、情報と未来デザイン、デザイン学ゼミナール

[研究指導テーマ(例)]

- 装飾美術・工芸の様式論的研究
- 「イタリア・デザイン」概念の形成と展開に関する研究
- カラーユニバーサルデザイン普及・啓発教材の開発

ICTシステムデザイン領域

塚田 元 教授



[研究分野]

自然言語処理、機械翻訳

[主な担当科目]

デザイン学ゼミナール

[研究指導テーマ(例)]

- 低資源言語の機械翻訳に関する研究
- 大規模言語モデルを活用した言語処理の研究
- 手話理解・翻訳に関する研究

ICTシステムデザイン領域

大島 直樹 准教授



[研究分野]
Human-Agent Interaction/ Human-Robot Interaction

[主な担当科目]
情報システムデザイン論、デザイン学特別講義、デザイン学ゼミナール

- [研究指導テーマ(例)]
- 認知科学の知見に基づき設計されたコミュニケーションロボットの構築
 - 身体的なコミュニケーションへの参加を重視したアバターロボットの開発
 - ヒューマンコミュニケーションの分析とその応用に関する研究

ICTシステムデザイン領域

廣瀬 伸行 准教授



[研究分野]
学習支援、CGの応用

[主な担当科目]
先進システムデザイン論、デザイン学ゼミナール

- [研究指導テーマ(例)]
- AI・ICTを用いた課題解決の研究
 - 学習支援システムの研究
 - AI・キャラクターを用いたコミュニケーションの確立に関する研究

ICTシステムデザイン領域

奥村 健太 准教授



[研究分野]
メディア情報処理、感性工学、身体知

[主な担当科目]
情報システムデザイン論、先進システムデザイン論

- [研究指導テーマ(例)]
- 芸術技能の育成支援・既存事例解析・未知事例生成
 - 工業技能伝承のためのセンシングと育成教材の開発
 - 個人認証に関するセンシングとアルゴリズムの研究

ICTシステムデザイン領域

齋 進 講師



[研究分野]
通信工学、情報学

[主な担当科目]
インターンシップ、デザイン学ゼミナール

- [研究指導テーマ(例)]
- コグニティブ(認知)無線に関する研究
 - コンピューターネットワークに関する研究
 - 知的環境認識型ネットワーク

マネジメント領域

石橋 豊 教授
経営学部長



[研究分野]
情報通信、ネットワーク

[主な担当科目]
マネジメント学特別講義、デザイン学ゼミナール

- [研究指導テーマ(例)]
- 触力覚を用いた人とロボット間協調の高精度・高品質化
 - 多感覚通信品質制御に関する研究
 - 多感覚メタバースを用いた歩行支援技術の研究開発

マネジメント領域

奥田 真之 教授



[研究分野]
金融論、金融経済教育、中小企業の経営戦略

[主な担当科目]
経営戦略論、デザイン学ゼミナール

- [研究指導テーマ(例)]
- 金融経済教育
 - 地域経済における金融機関の役割

マネジメント領域

山崎 方義 教授
総合経営学科長



[研究分野]
広告、マーケティング、
マーケティング・コミュニケーション、
コーポレート・コミュニケーション

[主な担当科目]
マーケティング論、デザイン学ゼミナール

- [研究指導テーマ(例)]
- リレーションシップ・マーケティングの発展と領域拡大
 - ステークホルダー・マネジメントにおけるコミュニケーション活動
 - SDGsとソーシャル・コミュニケーションに関する研究

マネジメント領域

鶴見 正史 教授



[研究分野]
中小企業の会計基準、会計構造論

[主な担当科目]
地域マネジメント論、デザイン学ゼミナール

- [研究指導テーマ(例)]
- 日本における中小企業会計基準の成り立ちと諸問題
 - キャッシュ・フロー計算書と簿記の会計構造
 - 明治以降における簿記の史的研究



入試概要

本学大学院では、春学期入学と秋学期入学の一般学生、社会人および外国人留学生を対象とした推薦入学試験と一般入学試験があります。

A

募集専攻及び募集人員

愛知産業大学大学院造形学研究科では、以下の通り各専攻の募集を行います。

募集専攻	入学期	選考区分		募集人員
建築学専攻 (修士課程)	2026年度春学期(4月入学) I期・II期・III期	推薦入学選考	一般学生選考	10名
			社会人選考	
	一般選考		留学生選考	
	一般選考		一般選考	
デザイン学専攻 (修士課程)	2026年度秋学期(9月入学)	推薦入学選考	一般学生選考	10名
			社会人選考	
	一般選考		留学生選考	
	一般選考		一般選考	

B

選考方法

以下の通り、入学者選考を実施します。

選考区分	対象者	選考方法
推薦入学選考	一般学生	成績が特に優秀で、明確な目標を持ち、自己推薦ができる者
	社会人	「社会人」とは、次の①～③のうち、いずれかを満たす者 ①職に就いている者（給料、賃金、その他の経常的な収入を得る仕事に就いている者） ②給料、賃金、その他の経常的な収入を得る仕事から既に退職した者 ③主婦・主夫
	留学生	「留学生」とは、日本の国籍を有しない者
一般入学選考	建築学専攻を希望する者	①出願書類 ②面接 ③基礎科目（60分）：英語 辞書持ち込み可（電子辞書を含む） ④専門科目（60分） 第1志望教育研究領域の2問題（必須）およびそれ以外の任意の1問題（選択）の計3問を解答します ⑤小論文（60分）
	デザイン学専攻を希望する者	①出願書類 ②面接 ③専門科目（120分） 第1志望教育研究領域に関わるデザイン課題 ④小論文（60分）

C 受験資格

受験資格審査

4年制大学を卒業していない者は、受験資格審査を受ける必要があります。受験資格審査の合格者は、本学大学院の入学試験を受験できます。必要書類は本学ホームページからダウンロードできます。不明点などは入試広報課にお問い合わせください。受験資格審査の日程は以下の通りです。

入学期	申請期間 [当日消印有効]	審査結果発表日
2025年度 秋学期(9月入学)	2025年6月26日(木)～6月30日(月)	2025年7月7日(月)
2026年度 春学期(4月入学)	I期 2025年9月8日(月)～9月12日(金)	2025年9月19日(金)
	II期 2025年11月10日(月)～11月14日(金)	2025年11月28日(金)
	III期 2026年1月5日(月)～1月9日(金)	2026年1月16日(金)
2026年度 秋学期(9月入学)	2026年6月8日(月)～6月12日(金)	2026年6月19日(金)

受験資格

- 下記の(1)～(9)のいずれかに該当する者
- 外国籍の者は、下記の(1)～(9)のいずれかに該当し、かつ(ア)～(エ)のいずれかに該当する日本語能力を持つ者
 - 大学を卒業した者及び2026年3月31日(秋学期は2026年9月30日)までに卒業見込みの者
 - 学校教育法第104条第4項の規定により、独立行政法人大学評価・学位授与機構から学士の学位を授与された者及び学士の学位を2026年3月31日(秋学期は2026年9月30日)までに取得見込みの者
 - 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び2026年3月31日(秋学期は2026年9月30日)までに修了見込みの者
 - 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び2026年3月31日(秋学期は2026年9月30日)までに修了見込みの者
 - 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び2026年3月31日(秋学期は2026年9月30日)までに修了見込みの者
 - 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であること、その他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び2026年3月31日(秋学期は2026年9月30日)までに修了見込みの者
 - 文部科学大臣の指定した者
 - 大学に3年以上在学した者であって、本学大学院が、所定の単位を優秀な成績で修得したと認めた者(注1)
 - 本学大学院が行う個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、2026年3月31日(秋学期は2026年9月30日)までに22歳に達する者
 - 注1) 外国における大学の3年課程または15年の教育課程を修了した者は、出願資格(8)に該当しません。(9)の出願資格となります。出願資格(8)(9)により出願する者は、入学願書の提出に先立って受験資格審査を受ける必要があります。
- 【外国籍の者が必要な日本語能力】
 - (ア) 日本留学試験(EJU)「日本語」200点以上 ※「記述」以外の合計
 - (イ) 日本語能力試験(JLPT) N2 以上 (ウ) J.TEST実用日本語検定 C級以上 (エ) 日本語NAT-TEST 2級以上

D 入試日程

春学期入学、秋学期入学において、以下の日程で出願することができます。

出願をする場合は、研究内容や指導教員の確認のために、出願期間の前に本学大学院教員との事前相談が必要となります。大学院ウェブサイトより申し込みを行ってください。

入学期	事前相談受付期間	事前相談日
2025年度 秋学期(9月入学)	2025年6月30日(月)～7月9日(水)	2025年7月11日(金)
2026年度 春学期(4月入学)	I期 2025年9月22日(月)～10月1日(金)	2025年10月12日(日)
	II期 2025年12月1日(月)～12月10日(水)	2025年12月19日(金)
	III期 2026年1月19日(月)～1月28日(水)	2026年2月4日(水)
2026年度 秋学期(9月入学)	2026年6月22日(月)～7月1日(水)	2026年7月10日(金)

入学期	ネット出願期間 (開始日9:00～締切日23:59)	書類必着日	選考日	合格発表日	入学手続き日
2025年度 秋学期(9月入学)	2025年 7月16日(水)～19日(土)	7月22日(火)	8月 1日(金)	8月23日(土)	9月 1日(月)
2026年度 春学期(4月入学)	I期 2025年 11月3日(月)～14日(金)	11月15日(土)	11月29日(土)	12月12日(金)	12月24日(水)
	II期 2026年 1月6日(火)～13日(火)	1月14日(水)	1月24日(土)	2月10日(火)	2月24日(火)
	III期 2026年 2月11日(水)～23日(月)	2月25日(水)	3月 2日(月)	3月10日(火)	3月20日(金)
2026年度 秋学期(9月入学)	2026年 7月15日(水)～18日(土)	7月21日(火)	8月 7日(金)	8月28日(金)	9月 4日(金)

試験会場はいずれも愛知産業大学岡崎キャンパスです。

入試概要

E 出願手続

出願書類

以下に示す書類を整え、出願を行ってください。対象者により、必要書類が異なりますのでご注意ください。
 所定の用紙は本学ウェブサイトよりダウンロードできます。
 「ネット出願(p.23参照)」を行った後に、「書類必着日」までに本学に届くよう提出(郵送)してください。

書類		一般学生	社会人	外国籍の者
入学志願票	ネット出願システム(post@net)からプリントしたもの (注)写真は出願前3カ月以内のものを使用すること	●	●	●
志願理由・研究計画書	所定の用紙に記入したもの	●	●	●
自己推薦書	所定の用紙に記入したもの	●	●	●
卒業証明書(卒業見込証明書)	出願資格にかかる出身教育機関において 学校等の長が作成したもの もしくは、公的機関によって証明されたもの	●	●	●
成績証明書	出願資格にかかる出身教育機関において 学校等の長が作成したもの もしくは、公的機関によって証明されたもの	●	●	●
日本語教育機関の卒業証明書 (卒業見込証明書)	出願資格にかかる出身教育機関において 学校等の長が作成したもの もしくは、公的機関によって証明されたもの			●
在留カード(写)	表と裏の両方をコピーしたもの			●
住民票	住民票の原本			●
パスポート(写)	査証、証印、スタンプが押印されたすべてのページ をコピーしたもの			●
外国人留学生履歴書	所定の用紙に記入したもの			●
日本語能力を証明する書類(写) (ア)～(エ)のいずれか1点 (ア)日本留学試験「日本語」(「記述」以外の合計が200点以上)成績表 (イ)日本語能力試験 N2 以上合格 合格証 (ウ)J.TEST実用日本語検定 C級以上 合格証 (エ)日本語NAT-TEST 2級以上 合格証 ※(ア)～(エ)のいずれかの日本語能力がないと外国人留学生は受験できません。			●	
経費支弁者との関係を証明する書類(写)				●
学士の学位授与証明書(写) (学位授与申請予定証明書(写)) ※P20「受験資格」(2)に該当する場合のみ	大学評価・学位授与機構が発行したもの または、在籍する教育機関の長が発行したもの	●	●	●
受験資格審査結果通知書 ※P20「受験資格審査」を受けた場合のみ	本学より送付した通知書をコピーしたもの	●	●	●

証明書類等が日本語以外の言語で記載されている場合には、必ず日本語訳も添付すること。

入学検定料

35,000円

F 学納金

学納金は以下の表になります。

納付金種別	1年次		2年次	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期
入学金	150,000円	—	—	—
授業料	250,000円	250,000円	250,000円	250,000円
教育充実費	150,000円	150,000円	150,000円	150,000円
実習費	25,000円	25,000円	25,000円	25,000円
計	575,000円	425,000円	425,000円	425,000円
	1,000,000円		850,000円	

○その他(入学手続き時に学納金と一緒に納付するもの)災害傷害保険料、健康管理料、防災備蓄費など 23,500円

【長期履修制度】

長期履修制度は以下の表になります。

3年制	1年次		2年次		3年次		3年総額
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	
入学金	150,000円	—	—	—	—	—	150,000円
授業料	166,667円	166,667円	166,667円	166,667円	166,667円	166,666円	1,000,000円
教育充実費	100,000円	100,000円	100,000円	100,000円	100,000円	100,000円	600,000円
実習費	16,667円	16,667円	16,666円	16,666円	16,667円	16,667円	100,000円
計	433,334円	283,334円	283,333円	283,333円	283,333円	283,333円	1,850,000円

4年制	1年次		2年次		3年次		4年次		4年総額
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	
入学金	150,000円	—	—	—	—	—	—	—	150,000円
授業料	125,000円	1,000,000円							
教育充実費	75,000円	600,000円							
実習費	12,500円	100,000円							
計	362,500円	212,500円	1,850,000円						

○その他(入学手続き時に学納金と一緒に納付するもの)災害傷害保険料、健康管理料、防災備蓄費など 23,500円

【留学生奨学金】

給付条件	給付内容
本学に入学するまでに以下のA～Dのいずれかの日本語能力資格を有する者 A. 日本留学試験(EJU)日本語270点以上(「記述」以外の合計) B. 日本語能力試験(JLPT)N1合格 C. J.TEST実用日本語検定 準B級以上合格 D. 日本語NAT-TEST 1級合格	後期授業料より減免 【建築学専攻】【デザイン学専攻】 各学年200,000円給付

2年次の継続給付には1年次の取得単位数が16単位以上であることが条件

G その他

【身体に障がいをもつ者の出願】

本学大学院に入学を志願する者で、身体に障がい(学技教育法施行令第22条の3に定める身体障がいの程度)がある者は、受験上及び修学上特別な配慮を必要とすることがありますので、それぞれの出願期間の開始日までに、本学大学院入試広報課へ申し出てください。

お問い合わせ先

入試広報課(電話受付時間:平日9:00~17:00)

TEL: 0564-48-4804 MAIL: kouhou@asu.ac.jp

不明な点、相談などがありましたら、お気軽に入試広報課までご連絡ください。



ネット出願から合否までの流れ

メールアドレスが必要です。

ユーザー登録の際、メールアドレスの入力が必要です。

携帯メールの場合はドメイン(@asu.ac.jp、@postanet.jp)からのメールについて、受信できるよう設定してください。
出願登録完了時および入学検定料支払い完了時に、登録したメールアドレスに確認メールが自動送信されます。
また、入試日までに関心事をお知らせを送信することもありますので、随時メールの確認をお願いします。

プリントアウトする必要があります。

ネット出願後に志願票や受験票などをプリントアウトする必要があります。

ご自宅にプリンターがない場合はコンビニで印刷できるサービスなどもありますので、事前に確認をお願いします。
詳しいネット出願の流れは右記よりインターネット出願ガイドをご覧ください。

※2026版への
更新は夏～秋頃です。



STEP 1 事前準備

- ◎出願する前に「大学院案内2026」のp.19～p.25を通読してください。
- ◎ネット出願の際に顔写真のデータがあると入学後も学生証として使用できますので、ぜひご用意ください。
- ◎ネット出願後に必要書類を郵送してください。到着(書類必着日まで)をもって、出願完了です。(P.21参照)

STEP 2 アカウント作成、出願登録を行う

アカウント作成 下記手順に従ってアカウントの作成をしてください。

- ① 愛知産業大学 ホームページにアクセスし、「ネット出願」をクリックして出願ページを開く。
- ② Post@netのログイン画面より「新規登録」ボタンをクリックする。
- ③ 利用規約に同意した後、メールアドレス・パスワードを入力して「登録」ボタンをクリックする。
- ④ 仮登録メールが送付されます。受信から60分以内にメール本文のリンクをクリックして登録を完了させる。
- ⑤ ログインの際には、登録したメールアドレスに認証コードが届くので、入力しログインする。



ログイン 下記手順に従ってログインし、お気に入り学校の登録をしてください。

- ① メールアドレス・パスワードを入力して「ログイン」ボタンをクリックすると、登録したメールアドレスに認証コードが届くので、入力しログインする。
- ② 「学校一覧」から「愛知産業大学」を選択する。

出願登録 「出願登録」ボタンをクリック後、画面の指示に従って登録してください。

支払方法の選択 検定料の支払い方法を「コンビニ・ペイジー」もしくは「クレジットカード」のいずれかを選択します。

STEP 3 入学検定料を支払う

入学検定料 35,000円

クレジットカードもしくはペイジーにてお支払いをお願いします。

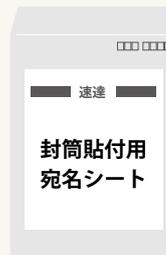
ペイジーは、コンビニ、ATM、一部銀行のインターネットバンキングにて利用できます。

※検定料とは別に支払手数料980円(税込)がかかります。

- ・一度納入した入学検定料は、理由の如何にかかわらず返金しません。
 - ・入学検定料支払いの領収書は提出不要です。控えとして保管してください。
 - ・出願登録(STEP2)した翌日の23:59まで(ネット出願期限最終日に出願登録した場合は当日の23:59まで)に、入学検定料をお支払いください。
- 上記の支払い期限を過ぎますと、登録された内容での入学検定料の支払いができなくなり、出願不可となります。

STEP 4 必要書類を郵送する (書類必着日までに本学に到着すること)

- ① Post@netへログインし「出願内容一覧」より愛知産業大学の「出願内容を確認」を選択し「志願票ダウンロード」、「封筒貼付用宛名シートダウンロード」をクリックし、それぞれのPDFファイルをダウンロード・印刷して下さい。
- ② 印刷した志願票と、調査書などの必要書類を同封して郵便局窓口から簡易書留・速達で郵送して下さい。



市販の角2封筒に封筒貼付用宛名シートを貼り付けて必要書類を封入してください。

STEP 5 受験票を印刷する (入試当日に必ず持参)

必要書類の受理、入学検定料の入金確認後、「受験票ダウンロードメール」が届きます。(数日かかることがあります。)

- ① Post@netへログインし「出願内容一覧」より愛知産業大学の「出願内容を確認」を選択し「デジタル受験票ダウンロード」をクリックして、PDFファイルをダウンロードして下さい。
- ② ①のPDFファイルをA4で印刷して下さい。
- ③ 試験当日に必ず受験票を持参して下さい。

※試験日の前日までに、受験票がダウンロードできない場合は入試広報課(☎0564-48-4804)までご連絡ください。

STEP 6 合否結果を照会する (合格発表日10:00発表)

- ① Post@netへログインし「出願内容一覧」より愛知産業大学の「合否結果照会」を選択して下さい。受験内容を確認し間違いなければ「はい」をクリックして、合否結果を確認して下さい。
- ② 合格者には別途「合格通知」および「入学手続書類」を郵送します(不合格者および欠席者には郵送しません)。発表後2日を過ぎても書類が届かない場合は入試広報課(☎0564-48-4804)までご連絡ください。

授与する学位

研究科・専攻	学位名称
造形学研究科建築学専攻	修士(建築学)
造形学研究科デザイン学専攻	修士(デザイン学)

大学院行事日程

	春学期入学	秋学期入学
3月	● 留学生ガイダンス(M2S)	● 主査・副査報告書提出(M2F)
4月	共通	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 健康診断等(M1S,M2S) ● 春学期授業開始(M1,M2) ● 春学期ガイダンス(M1F,M2) ● 春学期履修登録(M1F,M2) 	
8月	<ul style="list-style-type: none"> ● 入学式(M1S) ● 新入生説明会(M1S) ● 指導教員報告書提出(M1S) ● 履修登録(M1,M2) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 修士研究概要提出(M2F) ● 修士研究提出(M2F) ● 修士研究中間成果報告書提出(M1F) ● 修士研究審査会(M2F) ● 修士研究中間成果報告会(M1F)
	共通	
9月	<ul style="list-style-type: none"> ● 秋学期ガイダンス(M1S,M2) ● 秋学期履修登録(M1S,M2) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学位記授与式(M2F) ● 留学生ガイダンス(M2F)
	共通	
10月	● 秋学期授業開始(M1,M2)	
		<ul style="list-style-type: none"> ● 新入生説明会等(M1F) ● 指導教員報告書提出(M1F) ● 秋学期入学式(M1F)
1月	● 修士研究概要提出(M2S)	
2月	<ul style="list-style-type: none"> ● 修士研究提出(M2S) ● 修士研究中間成果報告書提出(M1S) ● 修士研究審査会(M2S) ● 修士研究中間成果報告会(M1S) 	
	● 学位記授与式(M2S)	
3月		

※M1S：修士1年(春学期入学) M2S：修士2年(春学期入学)

※M1F：修士1年(秋学期入学) M2F：修士2年(秋学期入学)

授業時間

月曜日から金曜日まで下記の時間帯で行われています。

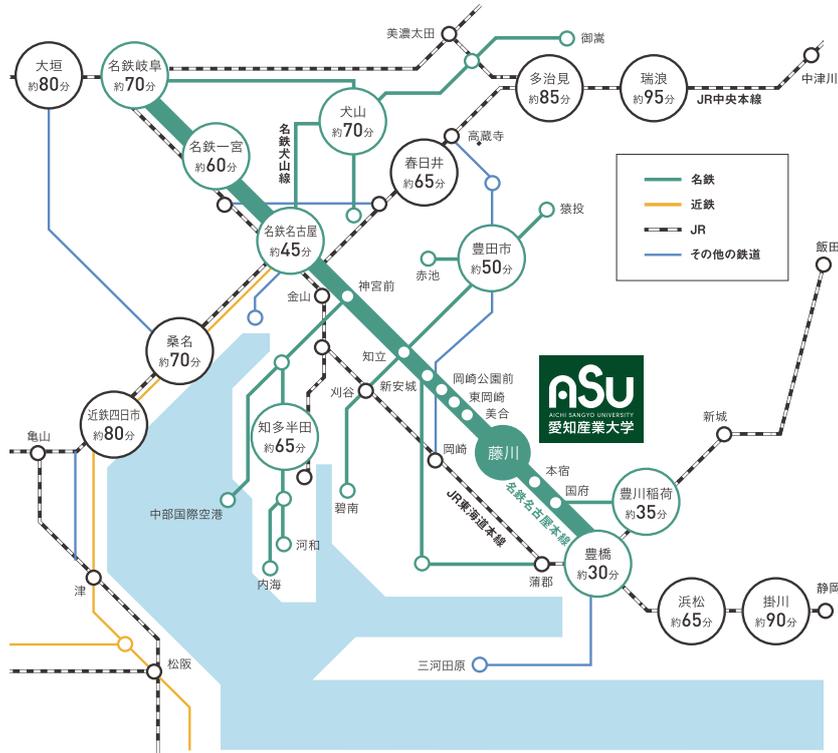
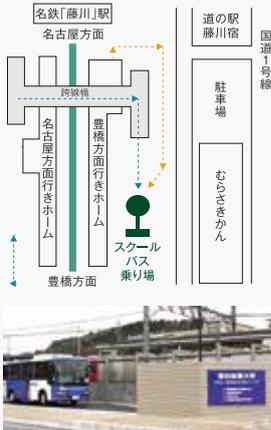
1時限	9:30~11:00
2時限	11:10~12:40
3時限	13:40~15:10
4時限	15:20~16:50
5時限	17:00~18:30



アクセス [愛知産業大学 岡崎キャンパス]

スクールバス乗り場

名鉄名古屋本線「藤川」駅下車、
専用スクールバス乗り場より
スクールバスで3分



乗換案内



※名鉄特急は追加料金なし(一般席)で乗車できます。



自動車利用案内

- 名古屋方面からの場合
東名高速「岡崎IC」から国道1号線を東へ10分
三河高校入口信号左折3分
- 豊橋方面からの場合
東名高速「音羽蒲郡IC」から国道1号線を西へ15分
三河高校入口信号右折3分
- 新東名高速ご利用の場合
新東名高速「岡崎東IC」から国道473号線を南西へ5分
国道1号線に入り西へ8分、三河高校入口信号右折3分

自動車通学OK!

学生用駐車場を完備していますので、大学の許可を受けることにより、マイカー通学ができます。

愛知産業大学

〒444-0005 愛知県岡崎市岡町原山12-5

代表 TEL 0564-48-4511 FAX 0564-48-7756
入試広報課 TEL 0564-48-4804 FAX 0564-48-4541
MAIL kouhou@asu.ac.jp



AICHI SANGYO UNIVERSITY

Graduate School of Architecture and Design



愛知産業大学 大学院 造形学研究科

〒444-0005 愛知県岡崎市岡町原山12-5

TEL:0564-48-4511 FAX:0564-48-4541 MAIL:kouhou@asu.ac.jp

